アップシフトが相互行為で果たす機能

真田厚毅(京都大学大学院生)

1. はじめに

日常会話において人々は，夫婦や友人など通常常体で会話する間柄にあっても，敬体に切り替えることがある．このような現象は，ポライトネスの問題として扱われてきた(滝浦 2015)ほか，スピーチ(スタイル/レベル)シフト(宇佐美 2015)の問題として，主に初対面会話での敬体/常体の生起に関して定量的な分析が行われてきた(例えば，宇佐美 2001)．これらの研究は，親疎や社会的地位など参与者同士の「関係性」を重視し，会話の背景から分析を試みる研究と言えよう．しかし，常体と敬体の切り替えが，いかにして参与者自身にとってレリヴァントなものとなるかという疑問に対しては，「関係性」や「傾向」といった観点から説明することは難しい．この疑問に答えるには，実際の具体的なやりとりそのものに注目する必要がある．本稿は，あくまで言葉を相互行為の資源であり結果(横森 2018)と捉え，会話分析の手法を用いて，従来の言語学の議論では説明しきれない敬語現象について，行為連鎖の秩序に基づいて詳細に記述し分析することで明らかにすることを目指す.

本稿と同じく会話分析の手法を用いて，同じ相手に対する常体と敬体の使い分けに注目した研究に，西阪(2007)が挙げられる．(例1)は西阪(2007)の事例の一部を再構成したもので，待ち合わせ場所の変更を友人に提案する電話会話である．西阪は，基底となる連鎖(01 行目)を敬体を用いてマークし，「脇道」に逸れた準備となる連鎖を常体で展開し，再び敬体を用いた基底の連鎖(05,17-19 行目)に戻ると分析した．つまり，常体を用いた連鎖を，敬体を用いた連鎖で挟み込むのである．しかし，それ以外のアップシフト現象も実際には観察される．本研究ではアップシフトの現象をより広範に捉え，基底となる連鎖も常体で展開されるが，「脇道」に逸れたあと，基底の連鎖に戻る際にのみ敬体を用いた発話が現れる事例と，基底の連鎖に戻るのではなく，滞った連鎖を先に進める際に敬体を用いた発話が現れる事例について分析するとともに，西阪(2007)で扱われた事例も包摂できる説明を目指す．従って，I．通常常体で展開される会話において，II．連鎖の末部に現れる，この 2 点の条件を備えた敬語現象について，①そのような敬語・敬体の使用がどのような行為を遂行しているのか，②そのような敬語・敬体の使用がいかにして参与者の間でレリヴァントなものとして理解されているのか，の 2 点をリサーチクエスチョンとして設定し取り組む.

(例 1) [TB 01:10-02:01]
01 B:だけど:場所ちょっと:かえてほしいんですよ.
((中略))
04 A: うん.
05 B: じゃあアキバでどうですか.
06 (.)
07 A: アキバ::アキバアキバアキバなんでアキバ:=,
((中略))
17 A: ん:::んそれは:やっぱ聞いたほうがいいから,んじゃあ 先に[そっち]=
18 B: [nhhn]
19 A: =やってしまい[ましょう.

2. データ

本稿では，『日本語日常会話コーパス』(小磯他 2021)の中からアップシフトが見られる断片を使用する．これらの断片について会話分析の手法に則り，アップシフトが達成する相互行為上の機能について分析した．書き起こしの記号は Jefferson (2004)，串田・平本・林(2017)，及び Mondada (2018)に準じた.

2.1 基底の連鎖に戻ることによる離脱

本節では，西阪(2007)で議論されたような基底の連鎖に，「脇道」的な連鎖が挿し挟まれ，その後再び「本筋」的な基底の連鎖へと戻る際に敬語・敬体を伴う発話の産出が観察された事例をみる．ただし，西阪(2007)

で示されたものと異なり，最初の基底の連鎖は常体で展開されている．

断片 1 は，共同で卒業研究の実験をする予定の同級生二人による教室での会話である．断片開始の前，スマホの充電が無く、充電器を忘れた由佳に詩織が自分の充電器を貸すことを提案する．「実験についての話し合い」という基底の連鎖から，「充電」という脇道に逸れたあと，充電器の譲り合いをする中で，そもそも最初に確認すべき問題であるコードとスマホの符合の確認(01 行目)を後から行うという錯綜した展開となる．敬体を用いた「いいですか見て」(09 行目)は，そもそもの目的である「実験についての話し合い」という基底の連鎖に戻る位置で産出された．断片 1 では，詩織が由佳の iPhone の充電用ケーブルの差し込み口の形状について確認する連鎖を開始する(01〜03 行目)．この連鎖は，回答の不明瞭さやオーバーラップ(03-05 行目)など様々な要因により明確な連鎖の終わり(焦点が差込口の形の確認なのか，貸し借りなのか)がどこにあるのか見えないまま終わってしまう．そもそも 2 人は卒業研究について話し合うために会っており，08 行目で詩織は由佳の資料を手元に引き寄せ，続く 09 行目で「いいですか見て」を産出することで，充電についての連鎖から離脱し，卒業研究についての連鎖を開始した．次節では本節とは異なるタイプの，連鎖からの離脱を確認する．

断片 1 [CEJC:K001_014 46.05-47.03]

01	詩織	ねこれアイフォン口違うよね(.)これたぶん
02		(1.7)
03	詩織	違うよ[ねたぶん
04	由佳	[う:んたぶん]
05	詩織	これた]ぶん
06		(0.2)†
s-B		--->>†
07	詩織	あスマホだよね(0.4).hh((鼻すすり))
08		(0.8)((詩織は姿勢を机に向け由佳が持参した資料を手元に引き寄せる))
09	詩織→	いいです↑か見て.
10		(0.2)
11	由佳	どうぞどうぞ.

2.2 滞った相互行為を先に進める離脱

本節では，西阪(2007)で議論された事例と異なり，滞った相互行為を先に進める際に敬体を用いて連鎖から離脱する断片について分析する．

断片 2 は，母娘が夕飯の席で，東京のある国会議員の不祥事[1]について話している場面である．01 行目で母は，「離反」について追求している人はいるが今更であると吐露し，「ねぇ」を用いて彩香に同意を求める．02 行目で彩香は同意し，2.7 秒の沈黙の後，04 行目で母は彩香の顔を覗きこみながら「そんな話今頃知って，知らされたって」を産出し，頷きながら再び 01 行目と似た形式と音調で「ねぇ」を用いて彩香に同意を求める．そして姿勢を戻し，06 行目で「と思いましたよ」と敬体を用いて発話する．実は，この母の語りは，「市民である自分が知らないうちに物事が決まる」ことの例として断片が始まる 2 分程前より開始されている．その間，語りは「不祥事」とは直接関係ない話題(区長選挙等)にまでのぼり，彩香の反応も語りの核心とずれていた．「と思いましたよ」はこのように複数の課題を抱え，焦点が分かり辛くなった状態で語りを閉じる位置で産出された．つまり，スムーズに語りを閉じることができない(滞った連鎖)状態から，「と思いましたよ」(06 行目)によって連鎖から離脱し，相互行為を先に進める(08 行目)ことができた．

断片 2 [CEJC:T008_008 11.19-13.35]

01	母	いちよ今追求してる人いるに m いるけど今更ねぇ:
02	彩香	う:ん
03		(2.7)
04	母	そんな話今頃知って†m(0.6)e(0.2)知らされたって††ね:†
h-B		†彩香の顔を覗く---------->††頷く†
05		†(1.4)†
h-B		†体を戻す†
06	母→	と思いましたよ.
07		(0.7)
08	母	゜でも゜小池さんかわいそう

3. 考察

本稿では，基底の連鎖に戻ることによって直前の連鎖から離脱する事例と，滞った相互行為を先に進めて離脱する事例を通して，通常常体で展開される会話の連鎖の末部において一時的なアップシフトが見られる現象を観察してきた．以上の分析から，直前の行為連鎖から次の行為連鎖への離脱，応答を必ずしも必要としないデザイン，参加フレーム(西阪 2008)の切り替え，その他の資源との組み合わせの 4 点にまとめ考察する．

[1] 当時民主党議員の花輪智史氏が 2011 年 3 月 3 日に離党，音信不通となり，8 日に築地市場の豊洲への移転賛成を表明したことにより豊洲への移転が逆転可決となった出来事を指すと思われる．(都政新報 2021 特集)

3.1 直前の行為連鎖から次の行為連鎖への離脱

リアルタイムな発話では焦点の宛てられている話題が次々と移り変わっていく．スムーズに話題が移行し会話が展開されれば，それは参与者の間で対処すべき問題として扱われないが，何かしらの理由でスムーズに移行できない場合がある．例えば，断片 1 では，充電器を巡り錯綜したやり取りが続き、断片 2 では，母による複数の TCU にわたる長い語りが続く中で，語りの要点に対する捉え方が彩香と母でずれている上，母自身も語りの冒頭と終結部で語りの焦点がずれている，このように相互行為上何らかの課題を抱えたり，相互行為が滞ったまま，次の行為連鎖に移る際に人々は何らかの手立てを講じる必要がある．本稿ではそれが連鎖からの離脱であるとし，その手立ての 1 つとしてアップシフトが用いられていると考える．

3.2 応答を必ずしも必要としないデザイン

断片 2「と思いましたよ」は，自身の主観や状態を客観的に報告しており，話し手の状態を話し手が報告しているに過ぎない以上，受け手の応答を必ずしも必要とせず，それ以上連鎖が展開されなくとも構わない．断片 1「いいですか見て」は，相手の許可を求める発話で，その意味においては相手の反応を必要としている．ただ詩織は「いいですか見て」を，資料を自身に引き寄せ，上半身を机の方に折り曲げ，由佳ではなく資料に目を落としながら発話している．つまり由佳の応答がくる前にすでに「見て」いる．その意味では，断片 1 も，必ずしも受け手の応答を必要としない形にデザインされているといえる．このように発話をデザインすることが，直前の連鎖を終了させ，次の連鎖に移ることを可能にする一助となっている．また，連鎖が一旦終結した後，独り言っぽく発話したり公的にふるまうやり方は，参与者にとって新しい連鎖の開始とも直前の連鎖の拡張とも受け取られず，反応を返さない，あるいは曖昧な反応を返すことがレリヴァントとなる(Schegloff 2007)ため，敬語・敬体を用いて発話を産出することは連鎖から離脱する合理的なやり方といえる．

3.3 参加フレームの切り替え

断片 1「いいですか見て」を用いることで，貸し借りの参加フレーム(01-07 行目)から話し合いの参加フレーム(09 行目以降)へと切り替えている．断片 2「と思いましたよ」を用いることで，語りの参加フレーム(断片の前-04 行目)から雑談の参加フレーム(08 行目以降)へと切り替えている．このように連鎖からの離脱は，何者として相互行為に参与するかという参加フレームの切り替えに寄与するという側面も持ち合わせている．

3.4 その他の資源との組み合わせ

全ての事例に共通している事として，有標な声色や，身体動作を伴い演技的に敬体を含む発話を産出していることがあげられる．断片 1「いいですか見て」はそれまでの右腕を椅子にかけ上半身を開いた体勢から背を丸め机に向かう姿勢に切り替え，由佳を見ずに資料を覗きながら産出された．断片 2「と思いましたよ」は，隣に座る彩香に顔を向けた体勢から椅子にもたれ，投げやりな口調で産出された．これらは参加フレームの切り替えに貢献するものである．自然会話において，発話の末尾で様々な資源（視線，笑い，音調，言いさし）を用いることは聞き手の反応に合わせて主張を調整するための手段になっている(中村 2011)と考えられる．

4. まとめ

これまでの研究では，基底となる連鎖が敬体を用いてマークされているとき，脇道に逸れて基底となる連鎖に戻る際に再び敬体を用いる現象について分析がなされた．本研究では，より広範な事例を取り扱うことで，基底となる連鎖が敬体を用いてマークされていなくとも，脇道に逸れて戻る際に敬体が用いられること，基底となる連鎖に戻らない場合でも，次の連鎖に進む際に敬体が用いられることを明らかにし，それぞれを，基底の連鎖に戻ることによる離脱，滞った相互行為を先に進める離脱として説明することで西阪(2007)を包摂する形で，通常常体で展開される会話の連鎖の末部に生起するアップシフトについて明らかにした．

また，このようなアップシフトは，独特な音調や身体動作と組み合わせて発話することで参加フレームを切り替え，直前の連鎖からの離脱を可能にしていることが分かった．加えて，敬語・敬体を用いた発話を，相手の応答を必ずしも必要としないデザインにすることで，自分のターンで連鎖を終結させることを可能にし，相互行為上の何らかの課題を抱え滞った連鎖からの離脱を実現させる手立てとなっていることも明らかにした．

謝辞　本研究は、JSPS 科研費 20H05630 の助成をうけたものである．本稿の執筆にあたり，横森研の皆様，同志社大学の皆様，関西会話分析研究会，コレクション検討会，会話分析初級者セミナー，非流暢な発話パターンに関する学祭的・実証的研究会話分析班の皆様にご助言いただいた．ここに感謝する．

参考文献

Jefferson, G. (2004). Glossary of transcript symbols with an introduction. In G. Lerner. (Ed.), *Conversation Analysis: Studies from the First Generation*. John Benjamins.

小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香 『日本語日常会話コーパス』設計と特徴 (2023). 国立国語研究所論集,24, 153-168.

串田秀也・平本毅・林誠(2017). 会話分析入門 勁草書房

Mondada, L. (2018). Multiple temporalities of language and body in interaction: Challenges for transcribing multimodality, *Research on Language and Social Interaction*,51(1),85-106.

中村香苗(2011). 会話における見解交渉と主張態度の調整 社会言語科学,14(1),33-47.

西阪仰(2007). 行為連鎖のなかの敬体と常体 明治学院大学 大学院社会学研究科社会学専攻紀要,31, 55-78

西阪仰(2008). 分散する身体 勁草書房

Schegloff, E. (2007). *Sequence Organization in Interaction: A Primer in Conversation Analysis*. Cambridge University Press.

滝浦真人(2015). 日本の敬語論　大修館書店

都政新報 (toseishimpo.co.jp)(2021). 2021 都議選ゲームチェンジャー第１部・新旧交代の帰趨(6)／少数会派の逆襲／あぶり出される求心力と信念

宇佐美まゆみ(2001). 「ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能―敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること― 語学研究所論集(6),1-29.

宇佐美まゆみ(2015). 日本語の「スタイル」にかかわる研究の概観と展望―日本語会話におけるスピーチレベルシフトに関する研究を中心に― 社会言語科学,18(1),8-18.

横森大輔(2018). 会話分析から言語研究への広がり 平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実(編) 会話分析の広がり ひつじ書房 pp.63―96